

令和5年3月31日

専門学校社会医学技術学院

学院長 殿

学校関係者評価委員会

令和4年度学校関係者評価委員会報告書

令和4年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員（アイウエオ順）

岩谷 清一（実習地・医療法人社団 永生会 永生病院・作業療法士）

大石 洋人（就職先・河北医療財団 多摩事業部 天本病院 理学療法士）

大関 健一郎（養成校・帝京科学大学医療科学部作業療法学科・作業療法士）

田村 浩子（自治体・小金井市保健福祉部 介護福祉課 包括支援係）

西本 典良（卒業生・医療法人コマクサ会虹の森 理学療法士）

濱野 智徳（地域・濱野智徳公認会計士税理士事務所）

森川 美智恵（高等学校・東京都立調布南高等学校進路指導担当）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和4年9月21日

（会場 社会医学技術学院、および ZOOM によるオンラインのハイブリッド開催）

第2回委員会 令和5年2月27日 （会場 社会医学技術学院）

3. 学校関係者評価 結果報告

別紙のとおり

学校関係者評価報告書(令和4年度)

<p>基準1 教育理念・ 目的・ 育成人材像</p>	<p>① 改訂カリキュラムの浸透度と効果の検証は必要だと思います。また、検証結果をカリキュラムの変更点とあわせて実習地にも知らせていただけると、よりよい実習に繋がると思います。症例モデルの取り組みは、これから現場に出て行く学生にとってよい機会だと思います。当事者の方、他職種からリハビリ職の役割・期待などを伺い、自分の専門性を考える機会が増えると良いと思います。</p> <p>② 業界が求める人材育成ではなく、本来あるべき人材育成、人としての思考力のある人材などを育成していただきたい。卒業生の授業や他職種連携を想定した授業などを是非取り入れていただきたい。目標に、人の思いや痛み、苦しみや喜びを共感できる豊かな人間性とあります。後輩育成を、宜しくお願い致します。</p> <p>③ 教育目標、目標とする専門家像については妥当なものと考えます。ただし、今後の課題として以下について発展させていくべきと考えます。地域において訪問リハなどを行っているリハビリテーションの専門家像は時代とともに変化していくべきものと感じております。まだ理学療法士や作業療法士が今のように広く一般に知られていなかった頃、自分たちこそがリハビリテーションの唯一の専門職であるという自負がありました。リハビリテーションのパイオニアとして自分たちこそがリハビリテーションを牽引していく責務があるという自覚は決して悪いことではないのですが、今日のようにリハビリテーションという用語も理学療法士や作業療法士という専門職も広く世間に知られ、多くの卒業生も医療の現場にとどまらず、広く介護や福祉の現場で仕事をするようになり、地域包括ケアが今後のヘルスプロモーションの基調となっていくことを考えるとこれまで医療技術者としての専門職として育ててきたセラピスト教育ももう一皮むける必要があるのではないかと思います。教育内容としての入り口としてのリハビリテーション概念に対し、その後の専門教育が寸足らずになっていないだろうかという懸念があります。リハビリテーション概念として全人的アプローチが強調されつつもその後の専門教育があくまで理学療法、作業療法の専門性しか追及されていない、理学療法や作業療法はリハビリテーションを実現するための手段であってそれそのものが目的ではなく、理学療法や作業療法が、患者さんや障害者のリハビリテーションのプロセスにおいて何をなすのかという視点をより明瞭にする必要があるように思います。多職種との連携の課題も理学療法士や作業療法士だけでなく、多職種で関わるからこそリハビリテーションが実現できるという認識が必要と考えます。こうした認識が育ってこそ、真の意味でのリハビリテーションを追及する専門職に成りうるのではないだろうかと考えます。</p> <p>④ 多職種連携教育について、看護学校との合同授業の取り組みはとても良いことであると思います。できれば聞く授業にとどまらず、グループワークやワークショップ形式でのアクティブラーニング等の授業形式がより効果的と考えます。</p> <p>⑤ 入学時基礎力試験の分析結果を活かして、学生のフォローができれば成果があがると考えます。</p> <p>⑥ 新型コロナウイルスの影響により、計画通り進めるのは難しかったと思います。その中で、目指す理念・目標を忘れず取り組んでいると思います。</p>
--	--

<p>基準1 教育理念・ 目的・ 育成人材像</p>	<p>⑦ 関連業界や卒業生から求められる人材像についてのフィードバックが得られるのは強みだと思います。社会の在り方が変わってきている中、働き方にも変化がみられるのではないかと思うので、それに対応できる知識・技能・能力を身につけさせる必要があると思います。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>① 50年の歴史で築かれた運営の強みを引き継ぎながら、社会情勢の急速な変化への対応を進めることは大変だと思います。会議規定、業務分掌、個々の職員の役割を再確認し、求められているニーズに柔軟に対応していく姿勢がとても大切だと思います。</p> <p>② 業務の効率化が優先されすぎないように、理念や方針に沿っているか、学生の為になっているか、さらにその先の患者や利用者の為になるかまで見据えた運営をお願いしたい。</p> <p>③ 時代や学生像の変化が激しい中、人的・物理的システムの活用を柔軟にお願いします。</p> <p>④ 今後予想される大規模修繕や防災対策としての校舎の改築などの具体的なプランニングが必要の時期と考えます。</p> <p>⑤ 教職員の方の「能力が高く、蓄積してきたノウハウも豊富」であることは頼もしい限りです。それぞれの力が発揮されることで、その熱意が学生にも伝わり、学校全体の活気ある雰囲気につながっているのだと思います。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>① COVID-19の感染対策をしながら教育活動を止めることなく、工夫をしながら継続できていることは素晴らしいと思います。感染状況を鑑みながら、課外活動も含めた制限を緩和する流れをつくっていただきたいと思います。また、特にコロナ禍で実習等に制限を受けた卒業生への相談場所としての役割や卒後教育の研修会開催の検討をお願いします。</p> <p>② 国家試験の合格が目的にならないようお願いしたい。国家試験の合格は通過点やスタート地点に過ぎず、その先をどこまで考えられるかの教育が重要と考える。</p> <p>③ 指定規則改定による臨床実習に対応するには、多くの課題があると思われます。情報収集をしながら、効率よく実習が進むように尽力ください。</p> <p>④ 引き続きコロナ禍の中で、教員の皆さんが学生たちの状況をよく把握され、それに対応した授業の提供を工夫しながら奮闘されている様子がよく伝わってきます。先生方のご努力に敬意を表するところです。実習教育の重要性は言うまでもなく、また新しい形での臨床参加型の臨床実習の取り組みでは現場での混乱や準備不足もあろうかと思いますが、逆にこれを機に大胆な臨床現場との協力をすすめ、牽引的な役割を発揮されることを期待します。教育実践としての学会発表などにも積極的に取り組んでほしいと思います。</p> <p>⑤ 引き続きの国試対策が必要と考えます。</p> <p>⑥ 感染症対策の観点からオンライン授業の実施が必要だと思いますが、学科の特徴から、できる限り対面でできると良いと思いました。</p> <p>⑦ 実際に自分で経験すること、観察することは、学びにとって非常に大切であると考えます。例えば、身体についての理解を深めるために解剖実習に立ち会ったり、障害のある方や高齢の方の当たり前の日常生活と同様な経験をしたりする機会は、将来目の前で起きていることを理解・判断する上で大切だと考えます。そのような機会も考えていただければと思います。</p>

<p>基準4 学修成果</p>	<p>① 就職や国家試験不合格者への対応がなされています。現場では、入職後まもなくして、また数年後に退職する療法士が増えている傾向があります。就職先と学院との情報交換が必要だと思います。</p> <p>② 就職や国家試験の勉強などは個別性が問われる時代となった。欠点よりも強みを活かす、その人にあったやり方や伸びしろを伸ばすことを探すことも大切になってくると思う。</p> <p>③ 求人数の多さは、おそらく他校に比べ秀でていいるのではと想像します。おそらく卒業生の多さや、卒業生たちのご活躍によるところも大きいかと思ひます。もっと学院側から積極的に卒業生への注文、発信して活用してほしく思ひます。多くの卒業生たちは学院からのどんな依頼にも積極的に答えてくれるはずです。</p> <p>④ 就職率、国家試験合格率より教育成果は得られていると思ひます。</p> <p>⑤ 職業に直結する専門学校であるからこそ、是非国家試験の合格率 100%を目指していただければと思ひます。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>① (学院の学生ではないですが) OT 実習生の実習開始後、精神面にフォローが必要だとわかることが少なからずあります。個人情報の兼ね合いもありますが、実習を円滑に行う為にも、実習前にフォロー内容の情報交換が必要だと考えています。また、夜間学生の医療・福祉施設でのアルバイトは、就職後のイメージもつきやすく引き続き推奨をお願いします。意欲のある人が経済的理由で学びの機会がなくならないよう、奨学金制度の協力など可能な範囲で協力していきたいと思ひます。</p> <p>② 学生相談室の相談件数は年々伸びており、その要因の多くがメンタルな内容となっている。その要因の分析及び対策などは実施しているか。</p> <p>③ これから数年は、新型コロナの影響で、休校、黙食、社会的な距離を取りながらの学生生活を余儀なくされてきた学生が入学してきます。対人関係能力が未熟な人も増えると思ひますので対策をお願いします。</p> <p>④ 学生相談室やカウンセラーの配置など大きな成果を上げているように思われます。おそらく今後もこの方面での指導体制の充実が必要であろうと思われ、複数体制のカウンセラーの配置や教員へのサポート体制の一層の充実が必要であろうと考えます。また、今日の経済状況の厳しさを考えると留年した際の学費の在り方も検討に値するよう思われます。</p> <p>⑤ 卒業生も含めて、丁寧に支援されていると思ひます。様々な環境の学生がいると思ひますので、今後もきめ細かい支援を期待しています。</p> <p>⑥ 引き続き、経済的に就学が厳しい学生のために奨学金制度等の充実に向けてご尽力いただければと思ひます。</p>

<p>基準 6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① COVID-19 の感染予防対策がなされていると思います。一方で学習環境の制限が生じているので、感染状況に見合わせた緩和の取り組みをお願いします。また、現状に見合った、もしくは先取りするような教育器具類（例えば車椅子、IT 機器等）の整備の検討・導入をお願いします。 ② 教育環境については、在学生に何があればもっといいか、もっとここを改善して欲しいなどのアンケートを取ってはいかががでしょうか。感染対策が教育環境を悪化させているのは明らかです。是非緩和を進めてください。 ③ リハビリ機器の進歩に合わせた、適した機器機材の購入計画をお願いします。 ④ 学生生活の満足度調査なども実施して学習環境の整備という課題についても学生が参加できるような形で取り組めればと考えます。 ⑤ 学生にとって必要な教育環境が整っていると思います。 ⑥ COVID-19 の影響で、ICT 化が急激に進みましたが、オンデマンド等 ICT 化のメリットを最大限に活かしつつ、対面における実習や個別対応に時間をかけることができるような教育環境を望みます。
<p>基準 7 学生の募集と受入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① HP、SNS では現場の状況や学院の強みが掲載されていて好感が持てます。当事者が PT・OT の必要性を語るコンテンツがあると良いと思います。医療介護職員従事者のキャリアアップを目指す方へのアピールの他に、医療介護従事者や卒業生の家族、中学生も対象とすると良いと思います。卒業生の職場訪問ブログや小中学生向けのコンテンツがあっても良いかも知れません。 ② PT、OT の認知度を上げる活動が必要。進路に迷う学生や悩む学生は多く、その為にも中、高校との協力体制はもっと強くする必要があります。社医学の特徴である学費が安い、専門職につける事の強みをもっと生かすべき。 ③ 少子化による定員割れ問題は、どこも深刻です。良い特徴も、相手に伝わってなければ意味を成しません。広報について、大きな変革が必要かもしれません。 ④ これについてもコロナ禍でさぞや苦労されていることと思います。あえて言えば、受験生を持つ家族からの相談を受けたことがあるのですが、今の受験生の傾向として、試験がある、落ちるかもしれないというだけで受験を簡単に諦めてしまう傾向があるようです。受験して不合格になるという恐怖は私たちの想像もつかないレベルであるようです。だからどうすればというのは思いつかないのですが、とにかく今の受験生世代は自信がない、不安が強く、早く安心したいという気持ちが強いように思われます。このあたりをどうとらえ、受験を単なる単発的なイベントではなくプロセスととらえたアプローチが必要なようです。また、高校現役世代が専門学校よりも大学を選ぶ傾向は、入試のハードルが低くなった今日、より強くなるだろうと思われ、社会人入学にウエイトを置き、思い切った入学選抜（ペーパー試験の免除など）に変更してもよいのでは考えます。 ⑤ 動画の内容を検討して、その動画を拡散する方法まで検討すべきです。SNS も検討すべきと考えます。予算を割くべき分野です。 ⑥ 18 歳人口の減少で、大学に入りやすい環境になっています。本校でも看護学科を希望している生徒は第一志望で専門学校を選択する生徒が 0 名となりました。世の中の経済状況をみると、学費の関係で大学進学を選択できない者もいるかと思いますが、そうではなく、積極的に御校を選択する魅力を伝えていただければと思います。

<p>基準 8 財 務</p>	<p>① 定員充足と休退学者を抑える努力が健全な学校運営を進める上で必要だと思ひます。</p> <p>② 収入のほとんどが学納金収入であり、学生確保、退学や休学者の減少を今後も考えていく必要がある。</p> <p>③ 健全な財政状態と経営成績です。</p> <p>④ 限られた財政を適正に管理していると思ひます。</p>
<p>基準 9 法令等の 遵守</p>	<p>① 法令等を遵守するための取り組みがなされています。見学・実習前に個人情報保護の指導を SNS 使用に対するガイドライン等を用いてお願いします。学院の様子が HP 上のブログなどで分かりやすく公開されていて好感が持てます。</p> <p>② 法令遵守に様々な取り組みがされている。今後も職員、学生に対し取り組みを実施していただければと思う。</p> <p>③ ハラスメント対策を万全にしてください。</p> <p>④ 法令や設置基準等適切に遵守していると思ひます。</p> <p>⑤ このようなご時世ですので、特にハラスメントについては、すれ違いから問題が発生することのないよう、細心の注意が必要だと感じております。</p>
<p>基準 1 0 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>① 卒業生への図書・施設利用は非常に助かっています。地域の受講者を対象とした「市民講座」の取り組みは、学院を知ってもらうためにもとても良い取り組みだと思ひます。市民公開講座、一般向けの WEB 講座などがあるとより社会貢献がなされると思ひます。</p> <p>② 地域や社会貢献は待っていても出来ない。こちらから地域に出向く姿勢がとても重要である。学生、職員ともにもっと地域に出て、地域住民を知ることがリハの原点に繋がると思う。</p> <p>③ 新型コロナで従来型の社会貢献が難しくなっています、コロナ禍であってもできる、新たな貢献の形が必要かもしれません。</p> <p>④ 今後とも食欲に社会にアピールすること、「名を売ること」に食欲になってほしく思ひます。</p> <p>⑤ アフターコロナにさくら体操をどのように展開していくか、検討が必要です。</p> <p>⑥ 新型コロナウイルス感染拡大により、今までのようになりませんが、市の介護予防事業等へ多大な協力をいただき感謝しております。</p> <p>⑦ 高校では、ボランティアの経験をしている生徒は多くありません。ボランティアマインドの醸成が必要だと思ひます。</p>

<p>その他の ご意見</p>	<p>① 年々学生の質が落ちているように感じている。勿論育成校の責任ではないが、外部環境や日本の教育体制など様々な要因がある。その中でも社医学としての軸になる教育方針や考えを明確化し、それに向けた学内体制整備を今後も続けていただきたい。</p> <p>② コロナ禍での教育活動、実習指導など本当に大変な時期だろうと思います。それでも規模の小さい専門学校だからこそこできる工夫と思いやりで乗り切ってほしいと思います。</p> <p>③ 最も重要なのは「募集」だと考えます。今まで以上にブランド力を高め、広報を上手く行っていく必要があります。</p> <p>④ 理学療法士・作業療法士は普段生活している中であまり関わる機会がない専門職だと思いますが、その専門職を志して入学する学生は、強い思いを持ち学ばれていると思いますので、ぜひ実現にむけて支援をお願いしたいと思います。</p> <p>⑤ 理学療法でも作業療法でも、必要な知識・技能については一通り学ぶことと思います。その上で、学生が個々に特に力を入れて取り組みたいことについて深く学ぶこともあるのでしょうか。自分がやりたいことが明確になると、高校生でもとてつもない力を発揮することがあります。将来の新しい働き方、新しい分野との連携が創造できると、更に魅力的な印象を受けます。</p>
---------------------	--